

治山治水

齋藤筍堂謹也 一 築田寺住職

今秋の二度にわたる台風は、関東・東日本に甚大な水害をもたらした。川の堤防が決壊し息をのむ被害をもたらしたことは、つらい記憶として今後も残されていくことと存じます。また、過去の災害も思い出されます。

築田寺の谷戸も危険地域として、市の図面に記憶されているため多くの知人の方々が心配して被害がな



いか問い合わせをいただきました。御礼申し上げます。幸い無事に過ぎました。

私が住職を引き継いだ昭和五十一年頃は区画整理が終了した時期と重なります。そのため、両側から大水が流れ込み、本堂がプカプカ浮いているような状況がありました。そこで南側に保育園を作り、児童福祉と共に水の防ぐようにしたのが昭和五十四年四月一日開園のしぜん園の国保育園です。また、田んぼだった本堂裏の所に庭園を作り、龍王が池の伝説を復活したのが、昭和五十六年の夏、調整池の役割でした。先代が建立した本堂以外の全ての現在ある建物を再構築したのも、やはり治水事業の一貫でした。庫裡の北側の山はせまっています。実は石壁を作った上段にも下段にも暗きよを入れ、その上にU字溝を通して四段の備えをしていることを知る人は少ないですが、それなりに頑張っ

て庫裡を守る備えにしています。しかしながら、山の木が成長しすぎて、これが根こそぎ倒れることは心配されます。雑木林の成長というものが、40年近くたつて自然のありがたさと同時に怖さも感じます。昔は近隣の人々が山に入り、木を切り、整備してくれていたため、治山が日常生活と共にできていたと思われれます。

東側の側面は、区画整理事業の設計ミスやN邸のギリギリまでの土木工事があり心配しています。これから、境界に竹の笹類など大地の根のはるものを植えたり、苗木を植えて将来に備えることをしなければならぬと思っています。いずれにしても、自然の景観を守りながら、なおかつ治山治水に心がけなければと思っ

ているところです。
尚、今年の水は何とか大きな被害もなく過ぎました。参禅会の人たちのおかげでもあります。

〔行事〕

出家得度式のお知らせ

九月二十三日につづき十二月二十二日(日)にも行います。単立寺院になって、大きく違ったことは、出家得度を受けたいと発願する方々が増えたことです。昨年は二名の得度でした。本年九月は、彼岸大施餓鬼会時の得度者一名につづき、本年末十二月二十二日九時より一名の出家得度式を行います。当日は、年末恒例の餅つきを「里山の会」の主催で行いますが、合わせての行事となります。ご興味のある方はおいでください。多くの方が見ている中で出家の志を後押しすることも重要なことです。道心堅固に過ごせるように願っています。佛教に関心をもってくれる方が一人でも多くなるといいですね。

得度式・餅つき 2019年12月22日(日)	◆ 得度式 9時より ◆ 餅つき 10時より ◆ ライブ 11時より (YATOプロジェクトによる催し＝滞空時間)
----------------------------------	--



9月23日 得度式



昨年の「里山の会の餅つき」と「YATOの年の瀬ライブ」

年末年始

明年の万事無事を祈念します。無事がいいですね。風も光も佛のいのち、全てをありがたく受け取って、一年を過ごしましょう。目をみはり、時代の兆しも見逃さず。

【予定】

※どなたでもご参加できます。

◆ 12月1日～8日
5時 接心会

◆ 8日
成道会
日曜 坐禅会如常

◆ 31日
18時 晩課及大巡堂
(山内を巡り一年を感謝します。)
夜坐(随坐)

◆ 元日

0時 初詣参拝開始
5時 坐禅一柱
6時 大般若、朝課読誦
6時半 坐禅会朝粥、祝坐
12時 旧壇信徒大般若読誦
12時半 新年会
14時半 終了予定
◆ 1月7日
始業式(幼)七草

大施餓鬼会 報告

オリンピックマラソンが会場を札幌に移したように、それに先立って当山も近年の暑さを避けるため、秋彼岸会中日に大施餓鬼会を行うことにし、本年（令和元年）実地いたしました。

参加者が減るのではと思われましたが、檀信徒の皆様のおついでに、養の心を表すように本年もお陰で盛大な式となりました。

この度は屋内のみで行うことといたしましたのが大きな変化です。

大施餓鬼会に「浄道場」として式の冒頭「散華」（さんげ）をいたしました（住職の孫たち五人による献茶、散華は「かわいらしかった」と好評でした。「本尊上供」は住職が行いましたが本尊さまに三拝できたことが本

人にとってうれしいことでした。また、施餓鬼会は、山内僧のみにより進行し副住職である「紘良」（こうりょう）師によるものとし、令和改元の年らしく、清新の気があふれた法要となりました。伝統と清新（改革）常に前を向きながら進んで参りたいと存じます。



鑑真和尚の故郷、揚州の白い名花

「瓊花（けいか）」スイカズラ科

瓊花は、中国揚州の名花。唐招提寺ゆかりの花として著名である。井上靖の歴史小説「天平の甍（いらか）」の結びつきの中で、ガクアジサイに似た五弁の白い花が八つ集まり咲くこの花は、佐賀県立森林公園、井上家墓地、唐招提寺におくられた歴史ゆかしい花である。

この度、井上靖先生の長女浦城幾世ご夫妻のご縁により、町田の寺にも瓊花をと自宅で育てられたものを、寄贈していただいた。開花は四月下旬から五月上旬とのこと。鑑真大和尚の故郷「揚州市」、和上上陸の地「佐賀市」、さらに井上靖家と經由して浦城家を経ての当山帰着した樹花。大事にいたしましょう。心に花を常に咲かせましょう。

入植式は明年春四月八日釈尊生誕日にと考えています。参加ご希望の方は直接築田寺においでください。良い香りがあると云います。（唐招提寺にて「天平香」として販売中）



瓊花（けいか）

〔偶感〕

最近になって、映画は観たことがないのに、題名である「俺達に明日はない」という、その言句が強く頭をよぎるようになった。

「世は無常」

私たちにも明日はない。健康に不安を覚え続けたこの十年。あったのは、今日、今をいかにきりぬけるかということのみだったと考える。

「いま、ここ、すぐに」

を目標の一つに掲げて今日まで来ている「即」。時間をおかずにただちによしと思えたことを実行する。

無財の七施ということを考えてみる。

- ①眼施（優しい眼差し）
- ②和顔悦色施（優しい微笑み）
- ③言辞施（心からの優しい言葉）
- ④身施（身体を使つてまわりの人に親切）
- ⑤心施（心からの感謝を）
- ⑥床座施（席や場所をゆずる）
- ⑦房舎施（自分の家でもてなしをお金がなくともできる七施。心がけていきましよう。自分にはできないと思わずに。心が



ホトトギス

け一つで誰かを幸せな気持ちにできることが実行できたらいいなと思います。丁寧に相手の話を聞くことが、目下の私自身の課題です。どうしても、忙しいことを言い訳にしがちです。相手の目をみて、ということも思いますが、そして、うなずきも大事ですね。

もう一つ、宗門を離れてみて、「只管打坐（ひたすら座る）」ということのありがたさが加齢加えて身にしみてきています。「黙の坐」が生涯通せるようになりたいものです。まず座ってみましょう。静かに静かに心を落ち着かせましょう。でも、過去の歩みは、ひよつとしたところでもまた新たな縁につながる。どうなるかと、人として善い行いをしておこう。

誰かふるき生涯に安んぜむとするものぞ

おのがじし新しきを開かんと思えるこそ

若き人々のつとめなる

生命は力なり

力は声なり

声は言葉なり

新しき言葉は則ち新しき生涯なり

（島崎藤村）

声に力がなくなつて久しい。眼に力がなくなつて久しい。

もう一度とせんなきことを考えるが、復活は難しい。

今秋十一月四日、都内を家族と共に、タクシーでかけめぐった。朝九時半、日本民藝館（二十年ぶりの訪問）、中目黒コーヒー・ギャラリーの花の展示会（幼稚園の特別講師）、東京都庭園美術館（旧朝香宮邸）、「時計」の展覧会（六本木）を経て、クタクタになりながら足を引きずりだした頃、サントリー美術館の美濃の茶陶展のポスターが目についた。普段ならもうあきらめるところであるが、その副題である「しびれるぜ、桃山」という言葉にひかれて、閉館

三十分前にとびこんだ。まず眼に入ったのは志野茶碗、国宝である。久しぶりに会ったこの茶碗にまずしびれてしまった。

とたんに背すじがのび、黄瀬戸、瀬戸黒、志野、織部の一つ一つに見入りながら、あつというまに一巡した。勝手なものである。とたんに、先代泰全和尚がかつて蔵していたという志野茶碗（発掘品）の話が思い出されたりした。叔父三郎陶齋のことも思い出した。青春が一気に呼びさまされた。三日前に行った従兄弟の竹中浩展もその一つである。そうだ、齋藤尚明展（新潟県高田）にも行かねば、とも思つたところだ。

何かキツカケがあれば、心が身体をリードすることもあるんだなあと思つた三十分でした。



日本民藝館 角瓶（河井寛次郎作）